

# 第39回全日本大学男子選手権大会

平成16年8月25日(水)～28日(土) 静岡県富士宮市/静岡県ソフトボール場他 日ソ協記録委員 矢島 敏克



## 国士館大(東京)

# 35年ぶり2度目の優勝!

標記大会は全国各地のブロック予選を勝ち抜いた精鋭32チームが、静岡県富士宮市に集い、覇権を争った。

メイン会場となった静岡県ソフトボール場は、平成10年の第9回世界女子選手権を開催したことで知られる「アジア」とも「世界一」ともいわれるスタジアムで、その後も昨年の国体の成年男子、今春の高校男子選抜大会の会場となるなど、選手諸君が日頃鍛えた技量を発揮するにふさわしい「晴れ舞台」である。

25日(水)に行われた開会式では、男女合わせて総勢56チームが堂々の入場行進。式典は型通りではあるが、厳粛かつスピーディーに進められ、最後に地元・常葉学園大の主将・山崎良選手が力強く選手宣誓を行い、互いの健闘を誓い合った。

静岡県ソフトボール場は、もちろん立派な観覧席があるが、隣接する山宮ふじぞくから球技場も周囲がグラウンド面より高く観覧席があるので、応援や観戦に適していて、大会期間中は多数の市民が来場。応援する部員や応援団、先輩・後輩の交流等の賑わい、歓

声や声援で会場は活気に溢れていた。

一方、試合内容は大味な印象のゲームが多く、31試合中7試合もあり、さらに準決勝が両試合ともに11対1と一方的なゲームであったこともその印象を強くした。

また、昨年の準優勝校・早稲田大(東京)が2回戦で敗退した以外は、さしたる「番狂わせ」もなく競技が進み、5連覇を狙う日本体育大(東京)と35年ぶり2度目の優勝を狙う国士館大が激突。互いに譲らず息詰まる投手戦となり、0-0のまま7回裏に突入し、国士館大が劇的なサヨナラで栄冠を手にした。

個人記録に目を向けてみると、決勝で対戦した国士館大の左腕・照井賢吾と日本体育大・山尾竜則が双璧であった。

照井は18イニングを投げ、防御率0・78、3勝を挙げ、準々決勝では無安打無得点試合達成し、優勝に貢献。さらに国士館大には右の小田澤直紀もあり、12イニングを投げ、防御率は0・58。2勝を挙げる活躍を見せた。一方の山尾は、17イニングを投

### 第39回全日本大学男子選手権大会

1	早稲田	13	1	5	1
2	龍城	1	2	2	
3	松山	5	6	10	
4	城山	7	14	3	
5	鹿島	6	9	0	
6	富山	14	3	6	
7	福岡	7	17	13	
8	明海	3	6	0	
9	高崎	9	1	4	
10	岐阜	1	4	0	
11	国際	0	1	12	
12	広都	2	2	10	
13	京大	1	9	9	
14	国士	2	1	2	
15	仙道	9	2	6	
16	熊谷	10	0	10	
17	日本	9	2	0	
18	日大	6	10	7	
19	金中	10	0	5	
20	常神	0	21	2	
21	東福	0	5	5	
22	大阪	2	5	11	
23	中京	5	3	4	
24	立東	5	3	2	
25	東大	4	2		
26	大経				
27	中法				
28	高知				
29	立海				
30	東経				
31	立山				
32	東山				

○準決勝  
福岡大 0 1 0 0 0 0  
国士館大 0 1 2 4 0 4x  
11 1

※6回得点差コールド

本大会では、54本の本塁打が飛び出し、福岡大・平山靖、立命館大・長岡孝が3本塁打を放つ活躍を見せた。

げ、防御率0・79。名門・日本体育大のエースとして、堂々たるピッチングでチームを引っ張った。

打者では、福岡大・平山靖の6割3分6厘(11打数7安打)が最高打率で、杉山浩之、山崎均の日本体育大勢がそれぞれ5割5分6厘(18打数10安打)、5割3分3厘(15打数8安打)で続いた。

一方、福岡は2回に先制したものの、その後は国士館・小田澤から追加点を奪えず、大差で敗れた。

▽困平山(福) 能條、清水②(国)  
▽佐々木(福) 照井②、浦本(国)  
〔審〕P 杉崎 1有馬 2佐野 3西村  
〔記〕小出  
2回表、福岡はこの回先頭の5番・平山が左越本塁打を放ち、1点を先制した。  
1点を追う国士館はその裏、1番・宮原の右前適時打で同点に追いつくと、3回裏には6番・能條の中越2点本塁打で勝ち越し。その後は4回裏、6回裏に4番・清水が2打席連続の本塁打を放つなど、18安打の猛攻で11得点。6回コールド勝ちを収めた。

▽困平山(福) 能條、清水②(国)  
▽佐々木(福) 照井②、浦本(国)  
〔審〕P 杉崎 1有馬 2佐野 3西村  
〔記〕小出  
2回表、福岡はこの回先頭の5番・平山が左越本塁打を放ち、1点を先制した。  
1点を追う国士館はその裏、1番・宮原の右前適時打で同点に追いつくと、3回裏には6番・能條の中越2点本塁打で勝ち越し。その後は4回裏、6回裏に4番・清水が2打席連続の本塁打を放つなど、18安打の猛攻で11得点。6回コールド勝ちを収めた。

### ◎決勝

日本体育大	0 0 0 0 0 0 0 0
国士館大	0 0 0 0 0 0 1x
	1 0

(日) ●山尾―井上  
(国) ○照井―山下

一方、立命館は日体・山尾、森の継投の前にわずか3安打に抑え込まれ、完封を免れるのが精一杯だった。

半谷、7番・山尾の連打と8番・山崎の中犠飛で3点を追加。この回大量6点を挙げ、続く4回表にも5番・山城の2点本塁打などで3点を追加して試合を決めた。

3回表、日体は四球と敵失で無死一・三塁の先制機をつかみ、2番・杉山の中越三塁打で二者生還。さらに3番・松崎が中前に運び、3点目。四球、三振で一死一・二塁とした後、6番・半谷、7番・山尾の連打と8番・山崎の中犠飛で3点を追加。この回大量6点を挙げ、続く4回表にも5番・山城の2点本塁打などで3点を追加して試合を決めた。

の、その後は国士館・小田澤から追加点を奪えず、大差で敗れた。

▽困山城、楠本(日) 杉山(日)  
〔審〕P 土田 1小林 2石川 3深沢  
〔記〕鈴木  
3回表、日体は四球と敵失で無死一・三塁の先制機をつかみ、2番・杉山の中越三塁打で二者生還。さらに3番・松崎が中前に運び、3点目。四球、三振で一死一・二塁とした後、6番・半谷、7番・山尾の連打と8番・山崎の中犠飛で3点を追加。この回大量6点を挙げ、続く4回表にも5番・山城の2点本塁打などで3点を追加して試合を決めた。

### ○準決勝

日本体育大	0 0 6 3 1 0 1
立命館大	0 0 1 0 0 0 0
	1 11

(日) 山尾・○森―井上  
(立) ●森脇―市村  
▽困山城、楠本(日) 杉山(日)  
〔審〕P 土田 1小林 2石川 3深沢  
〔記〕鈴木

〔審〕P 宮崎 1遠藤 2松田 3田口  
〔記〕吉野  
日体・山尾、国士館・照井両投手の投げ合いで息詰まる投手戦となり、互いに譲らず0-0のまま、試合は7回裏を迎えた。  
6回までノーヒットに抑え込まれていた国士館は、この回先頭の3番・照井がチーム初安打を放ち、犠打、内野ゴロで二死三塁。6番・能條への初球が暴投となり、三塁走者・照井が歓喜のホームイン。35年ぶりの栄冠を手にした。

一方、日体はエース・山尾が国士館打線をわずか1安打に抑える力投を見せたが、味方打線の援護がなく、最後は痛恨の1球に泣いた。



打線の援護なく、好投の日体大・山尾は1球に泣いた